TL 6483-38

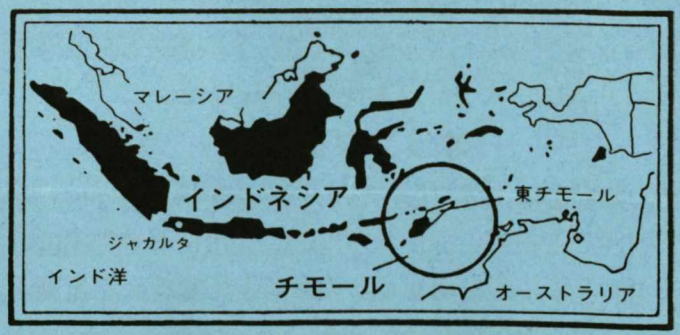
緊急アピール

オランダ大使館 4人の亡命要求を却下。

4人があぶない!! あなたの声をジャカルタへ

— 4人の東チモール人学生がインドネシアからの出国をのぞんでいます。 —

(3/10 読売新聞「宙に浮く政治亡命 — インドネシア」
左から、ダ・カマラ、ゴンサルベス、ダ・シルバ、セレノさん)



東チモールの会(仙台)
0222(88)9186(羽倉方)

東チモール連絡協議会(東京)
03(238)3708(上智大学コエーリョ方)

名古屋YWCA・東チモールを考える会
052(961)7707

東チモールの独立に連帯する会(大阪)
06(763)4137

呉YWCA・東チモール問題を考える会
0823(21)2414

東チモールはだれのもの？

1975年12月７日、ポルトガル植民地から独立をめざしていた東チモールにインドネシア軍が全面侵攻。

1976年７月17日、インドネシアによる東チモール併合。

併合に反対する人々に対して何度もくりかえされる「掃討作戦」。
国連で、採択され続けたインドネシア非難決議。
20万ともいわれる、東チモール人の犠牲者。

そして現在…。自決権の行使をねがう東チモールの人々の抵抗は今も続いています。

1986年　中期　Operasi Kikis という新たなせん滅作戦が東チモールの人々におそいかかりました。この作戦の目的は、抵抗の先頭に立っているフレテリン（東チモール独立革命戦線）の最高司令長官、シャナナ・グスマオを殺し、87年４月の総選挙の前に、占領に反対する人々を根だやしにしてしまうことです。この時期、東チモールでは、たくさんの行方不明者が出ました。
そして、ジャカルタでも……。

東チモール人学生 キャンパスから消える。

1986年９月３日、アントニノ・ゴンサルベス
９月16日、ヨアオ・フレイタス・ダ・カマラ、フランシスコ・フェルナンデス逮捕
アムネスティ・インタナショナルや世界の東チモール支援グループが追及。
10月11日、釈放。しかし、その後、身の危険を感じたゴンサルベス、ダ・カマラ、その友人2人は、
10月20日、オランダ大使館に入り、亡命をもとめる。
オランダ外相とインドネシア外相の協議。オランダ、亡命、受け入れを拒否。
10月22日、オランダがポルトガルのパスポート取得と彼らの安全を約束。この条件で、４人は、オランダ大使館を同日退去。

オランダの責任

その後、ポルトガル政府は４人に対しパスポートを発給。しかし、インドネシア政府は彼らをインドネシア国民だと主張。ポルトガルのパスポートでの出国をみとめることは、東チモールにおけるポルトガルの主権をみとめることになる、と反発。このような事態の展開はオランダ当局も当然、予想していたはずです。

４人があぶない!!

ゴンサルベスとダ・カマラは、70年代後期までフレテリンとともに、たたかっていました。その後地方公務員となりジャカルタに留学しましたが、彼らはここ数年、東チモールの状況を海外へ書き送ってきました。治安当局はそれらの手紙をすべて入手しています。２人は昨年９月、別件で逮捕され、不起訴になりましたが、その取り調べ中に、彼らの行為は「国家転覆罪」にあたると言われたそうです。（『読売』3.10）。

去る２月27日、４人の出国に関して、ジャカルタでインドネシアのモフタル外相の記者会見が行われました。モフタル外相は、４人がオランダ大使館へかけこむ前に外国人記者

と連絡を取ったことに腹を立てており、４人の動きを「政治的意図にもとづく計画的犯行」と見ています。彼は、「こんな連中はインドネシアだっていらない。」とさえ言うのですが、しかし彼らの出国の可能性については、「彼らには今までポルトガル国籍を取る機会があった。彼らがそれを利用してないということは、彼らが自らインドネシア人である事をみとめたあかしだ。インドネシア人にとっては、①出国には政府発行の出国ビザが必要であり、②ポルトガルは75年以来、インドネシアと国交断絶状態にあり、ポルトガルへ行くルートは閉ざされている。」と語っています。(Berita Buana, Jakarta Post, 2/28より)。

現在、４人は、大学をやめ、所持品を売って生活をたてていますが、彼らの行動は逐一、治安警察によって監視されています。

このような「敵意」と「飼い殺し」的状態に、４人を放置しておくことはできません。通常、EC諸国のパスポートを持つ者に、出国ビザの必要はありません。４人の出国を実現させるためには、再度、オランダ政府をつき動かす必要があるのです。

― あなたの声をオランダ大使館へ ―

この手紙を、在インドネシアオランダ大使館へ送って下さい。メッセージの項にあなたの一言をつけくわえて下さい。自由に書かれる方、もちろん大歓迎です。

【文章例】

Your Excellency,
I have been deeply concerned with the issue of self-determination of East Timor. Now I am extremely anxious about the safety of Antonino Goncalves, Joao Freitas da Camara, Abilio Oliveira Sereno, and Fernando Afonso da Silva. Please grant full diplomatic assistance and help them to leave Indonesia without delay.

メッセージ
Message

名前
Name

住所
Address JAPAN

【日本語訳】

私は東チモールの自決権問題に重大な関心をはらっています。今、アントニノ・ゴンサルベス、ヨアオ・フレイタス・ダ・カマラ、アビリオ・オリベイラ・セレノ、フェルナンド・アフォンソ・ダ・シルバ、この４人の安全についてたいへん憂慮しています。どうか必要な外交手段の全てを使って、彼らが一刻も早くインドネシアを出国できるよう、援助をおねがいいたします。

【あて先】

His Excellency
Dr. F van Dongen
The Ambassador
Embassy of the Netherlands
Jl. Hr.Rasuna Said, Kavel S-3 Kuningan
Jakarta 12950
Indonesia

▼「オランダ大使館東チモール人学生の亡命嘆願を拒否」
JAKARTA POST 23.10.1986

Dutch embassy rejects East Timorese students' asylum bid

JAKARTA (JP):

'86.10.25. JakartaPost
「オランダ政府、亡命要求事件の決着に、インドネシア政府に対して感謝を表明。」

Holland thanks RI for settlement of asylum-bid case

JAKARTA (JP)

▼「モフタル外相、4人の学生が政治の犠牲になると心配」

Mochtar Khawatir Empat Mahasiswa Korban Politik

JAKARTA,

▲Berita Buana '87.2.28

東に浮く政治亡命

インドネシア

『読売』
'87.3.10

東チモール独立支持の4人
当局が許可渋り、5か月余

▼「ジャカルタは東チモール人学生への出国ビザ発給を拒否」

Jakarta weigert studenten O-Timor uitreisvisa

Van onze redactie buitenland
AMSTERDAM -

Volkskrant '87.3.14 '87.3.14

▼「東チモール人学生は、インドネシアを出られない。」

Oosttimorese studenten mogen Indonesië niet uit

▲Waarheid '87.2.10

80 円
切 手

His Excellency
Dr. F van Dongen
The Ambassador
Embassy of the Netherlands
Jl. Hr.Rasuna Said, Kavel S-3 Kuningan
Jakarta 12950
Indonesia

BY AIR MAIL

Your Excellency,

I have been deeply concerned with the issue of self-determination of East Timor. Now I am extremely anxious about the safety of Antonino Goncalves, Joao Freitas da Camara, Abilio Oliveira Sereno, and Fernando Afonso da Silva. Please grant full diplomatic assistance and help them to leave Indonesia without delay.

一言
Message

名前
Name

住所
Address

JAPAN